

第三者評価結果報告書

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 福祉総合評価機構

②評価調査者研修修了番号

SK16021
SK15137
SK15216

③施設名等

名称：	南野育成園
施設長氏名：	樋口 俊司
定員：	60名
所在地(都道府県)：	岡山県
所在地(市町村以下)：	岡山市北区北長瀬表町2丁目14-25
T E L：	086-241-8018
U R L：	http://www.n708i.com/
【施設の概要】	
開設年月日	1949/5/20
経営法人・設置主体(法人名等)：	社会福祉法人南野育成園
職員数 常勤職員：	32名
職員数 非常勤職員：	10名
専門職員の名称(ア)	保育士
上記専門職員の人数：	19名
専門職員の名称(イ)	栄養士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称(ウ)	調理師
上記専門職員の人数：	4名
専門職員の名称(エ)	社会福祉士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称(オ)	
上記専門職員の人数：	名
専門職員の名称(カ)	
上記専門職員の人数：	名
施設設備の概要(ア)居室数：	23(2人部屋13、3人部屋4、4人部屋6)
施設設備の概要(イ)設備等：	大ホール、親子生活訓練室、心理療法室、厨房
施設設備の概要(ウ)：	会議室、保育室、図書室
施設設備の概要(エ)：	

④理念・基本方針

<p>理念 家庭で育つことができない子どもたちの心情に寄り添い、自立した社会人としての成長を支えます</p> <p>基本方針 主役は子どもです 子どもが本来持っている成長する力に寄り添います 自らを肯定的に受け止め、人との信頼関係が結べるように、成長を支えます</p> <p>地域でより活かされる施設を目指します 地域や家庭における子育て支援に、積極的に取り組みます 地域における行事や活動に、積極的に参加します</p> <p>職員もともに成長します 子どもたちとともにある生活を通して、さまざまな子どもたちとのかかわりの中で、子どもたちの声にならない心に寄り添い、自らを高めることで、支援の質を高め、子どもたちの養護を行います</p>
--

⑤施設の特徴的な取組

<p>本館では基本的に各グループで食事をしていますが、平日の朝食と土日の3食は各グループで調理を行っています。また、小規模グループケア、地域小規模児童養護施設では、献立作成、買い物、調理を毎日行っています。</p>

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2016/12/8
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2017/12/26
受審回数	1回
前回の受審時期	平成25年度

⑦総評

【特に評価の高い点】

・職員の不安を軽減する職場環境づくり

当施設は、マニュアルや手順等の整備は不足しているものの、それを補う職員同士のコミュニケーションの良さが窺える。職員は些細なことであっても不安なことやわからないことは、その場にいる職員に相談しており、解決できない場合は、統括主任、施設長へと繋がり、一つひとつ解決していく環境がある。このことは、職員が孤立することなく、子どもの支援に当たれる職場環境であると同時に縦・横のコミュニケーションの良さが、南野育成園の特長となっていることがわかる。

・子どもがのびのびと自己主張できる生活環境

統括主任は、日頃から職員や子どもに対して「小さな子どもが一番偉い」と伝えており、幼い子どもがのびのびと過ごせるよう配慮している。また、図書室やリビングルーム、小規模ホームなどの様子から、比較的自由に過ごしていることがわかる。職員は子どもとの信頼関係構築のために、日々努力しており、困った時には施設長がバックアップすることで、自我の芽生えとともに自己主張できる生活環境は、子どもたちにとって居心地のよい安心して暮らせる場であり、南野育成園の優れた点である。

・楽しい食事への配慮と食事を通じた地域交流の機会

平日の昼食、夕食は栄養士が献立を立てて、厨房で調理し、配膳用エレベーターを使って、それぞれのグループに届ける他、土日の献立は各グループの担当職員が立て、栄養士がチェックし指導している。毎月一回、グループの代表がパクパク委員会と称する給食委員会を開き、リクエストメニューをグループから5つ持ち寄り、献立に入れるなど子どもの楽しみが反映される仕組みがある。中高生は部活やアルバイトで戻りが遅いため、電子レンジで温める、職員がそばにいて話を聞くなど、それぞれに対応している。時には回転寿司を食べに出掛けたり、ピザを取ったり、毎月の誕生会には、お世話になっている地域の方々を招いて、一緒に食事するなど、多種多様な食事の楽しみ方がある。クリスマス会では書籍を寄贈して下さる方をはじめ、普段からお世話して下さる方々を招待し、一緒にバイキング料理を楽しんでいることが、ブログから窺える。

【改善が求められる点】

・マニュアルの整備

前回の第三者評価にて課題とされた点ではあるが、今回も整備の確認はできなかった。ベテランや新人など職員による支援の差を軽減し、子どもたちが最善の利益を得ることができるよう、標準的な実施方法を記載したマニュアルの整備が待たれる。マニュアルは、これまで培った支援方法や手順を文書として明記するところから始まり、定期的に見直しを行い、支援の質の向上に繋げることが期待できる。今後の取組みが望まれる。

・中・長期計画の策定

中・長期計画は施設長の頭の中にあるものの文書化されてはいない。また、収支計画は、単年度はあるが中期・長期面は作成されていないのが現状である。現実的に入所児童が減少しつつある傾向の中で今後どのようにしていくかを検討すべきと考えていることはヒヤリングから確認できる。今年8月に出された厚生労働省の方針をもとに、対応策は作成されていて、数値面までは明確ではないものの、既に岡山市へ提出した計画の中には記載されている。その内容を職員に伝えているが、どう対応すべきか、具体的なことはこれから明確になるため、小規模グループケアで定員確保の対応をすべく進められている。現状では里親推進を進めるといふ行政側の方針があり、里親委託推進等は課題であるといえ、将来的問題対応のためにも中・長期計画にこれら課題を明確にし、取組むことが望まれる。

・職員育成への取組みと支援の質の向上

施設長は、地域における子育て支援・相談業務の必要性が明らかなことから、社会福祉士資格はどうしても必要となるので育成していくことが重要と捉えている。ただし、一人ひとりの研修計画については、策定していない。今後は、職員一人ひとりが自身の年間目標を作成し、施設長と共有することで、目標達成に必要な研修を含め年間プログラムを策定することを期待したい。年間目標は中間面談で進捗状況を互いに確認し、最終面談までの間に課題を解決し目標を達成できる仕組みも合わせて必要と考えられる。職員一人ひとりの支援の質の向上は、園としての質の向上にも繋がるため、取組みが待たれる。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

評価の高い点として取り上げられた事柄に関しては、子どもたちの生活の場としての施設が、可能な限り居心地がよく、自分が大切にされていることを実感できる、成長の場であることを目指しての営みが評価されたと受け止めている。

改善が求められる点とされた事柄に共通するマニュアル化・文章化に関しては、指摘の通り前回の第三者評価においても取り上げられたものであるが、特にマニュアル化に関しては、大上段に構えると考えの基本、対応の詳細について、押さえるべき事柄が際限なく浮かび、まとまりがつかなくなることから具体化が進まないままとなっていた。

今回のヒアリングの際、誰がやっても同様の結果が得られるためには、重要なこと、手順を記録し更新を前提として気負わないこと、などの助言をいただいた。

目から鱗とはこのことと受け止め、改善に向けて取り組みたい。

⑥第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書（事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	
【コメント】		
基本理念は、ホームページ開設時に思いをまとめたものである。周知は、パンフとホームページで記載している程度であり、事業計画への記載はない。職員周知の方法は、年度初めの職員会議であるが、職員によって、理念・基本方針の理解がまちまちであるため、今後の周知方法の検討及び取組みが望まれる。		

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○
【コメント】		
社会福祉事業全体の動向や外部環境変化の情報は、全国組織の研修会および岡山県社会福祉協議会（以降、県社協）からの情報説明の他、全国社会福祉法人経営協議会（以降、経営協）及び岡山県経営協に加入しており、都度情報を得ている。福祉新聞の購読もある。 また、岡山市の各種福祉計画の策定動向と内容の把握は、岡山市子ども子育て支援プランと称する平成27年度から5ヶ年計画の冊子があり、その他岡山市ホームページにてショートステイの状況を確認するなどしていることがわかる。行政からの情報提供はないものの、入所率の推移は毎年度の事業報告書に記載しており、小規模ホーム運営に関わる本体施設の入所率は常に注視し、変化や経営環境を把握している。		

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	

【コメント】

施設長は、経営課題の基本線は変わらず、何に取り組むべきかについては明確であり、あるべき姿は明確にしているという思いである。ただし、事業計画が毎年変わらないのは、やるべきことが明確になっていない面もあるのではないかと考えられ、課題を認識して対応していく仕組みが機能するよう期待したい。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	c
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	

【コメント】

中・長期計画は施設長の頭の中にあるものの文書化されてはいない。また、収支計画は、単年度はあるが中期・長期面は作成されていないのが現状である。
現実的に入所児童が減少しつつある傾向の中で今後どのようにしていくかを検討すべきと考えていることはヒヤリングから確認できる。今年8月に出された厚生労働省の方針をもとに、対応策は作成しており、数値面までは明確ではないものの、既に岡山市へ提出した計画の中には記載している。また、職員に伝えているが、どう対応すべきか、具体的なことはこれから明確になるため、小規模グループケアで定員確保の対応をすべく進めている。
現状では里親推進を進めるという行政側の方針があり、これに正しい対応をするためにも、中・長期計画を数値・施設の両面から作成し、課題を明確化する取組みが望まれる。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	c
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	

【コメント】

現状では、中・長期計画が明確でないため、中・長期計画の内容を反映した単年度計画は策定されていない。ただし、単年度計画は、作成されている。
28年度事業計画の推進状況と29年度計画策定時に職員会議で確認している。ただし、改善点についての明確な方向性の作成までには至っていないため、今後の取組みが待たれる。

(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

事業計画は、作成時には職員会議で前年度の消化状態を確認の上、昨年の反省をもとに検討して計画書にまとめ策定している。事業計画書は毎年度表現は同じとなっているが、問題点や改善点について議論した結果で策定している。前年度の職員会議で、文書を読んだ上で疑問点を持ち上げて意見を表明して、作成しているとのことであり、職員も策定には関わっているものといえる。

ただし、検討記録が確認できないため、次年度の事業計画に反映していくよう職員会議であげられた事業計画の達成度合いを文書化して次年度計画に反映する仕組みづくりを期待したい。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

事業計画は、子ども・保護者に説明はしていない。職員が行事の説明として伝えるようにしている。子どもによっては、理解できる子とそうでない子がいるため、とりたてて事業計画として周知するようなことはしていない。事業としてこんなことなどがあるという程度の説明となっている。今後の取組みが待たれる。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的を受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

【コメント】

日々の問題点は毎日のミーティングで事情を聞いて対応している。表に出てこない面もあるので注意しながら統括主任がフロア担当者と情報を共有しながら対応している。結果報告を施設長にあげる仕組みがあり、処遇上の問題は統括主任がリーダーとして対応している。年1回の自己評価は行っている。今年は施設長が行い、通常は職員ができていない点とできていない点を認識するよう取り組んでいる。

②	9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	c
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

施設長は、職員会議で平成26年度の第三者評価結果のまとめを伝え、課題を確認しあったが、その後の対応については具体的にどうするかという点にまで至っていない。前回の具体的な改善点についての取組みは、ほとんどなされていない。特に施設長は、マニュアルの策定には抵抗があるとのことである。改善した点は外部への情報開示であり、現在、ホームページや広報誌で情報を開示している。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

施設長は管理規程や職務分掌表にて、役割・責任を明確にしている。毎年発行の後援会新聞に自らの役割・責任の下、今後のビジョン・方針等を記載している。また、災害や事故等の有事における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化している。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

施設長は、法令に関する研修会に参加している。また、全国児童養護施設協議会(以降、全養協)、全国社会福祉協議会(以降、全社協)の会議・研修会にも参加し、新情報を取得するよう努めている。労働環境関係は、社労士に依頼しているため、労働問題・人事面は尋ねながら行っている。児童福祉法の改正の周知は、要点解説書を購入して職員が見ることができるようにしており、施設長自身が把握した内容については、ミーティング・職員会議で職員に伝達している。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

施設長は、施設内の現状・課題等の把握を職員会議やミーティングを通して行っており、課題の取組みについては、統括主任に伝達し現場レベルで改善するようリーダーシップを発揮し指導している。施設全体として、支援に関する事項は現場へ委任しており、主に指示で済む場合は報告・相談を受ける体制を整えており、相談・協議で進めている。ただし、課題の抽出及び解決までの経緯等は文書化しておらず、今後の取組みに期待したい。

②	13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	

【コメント】

職員の配置は、経験年数は勿論であるが指導力がある職員を処遇困難な子どもにつけるなどしてスムーズに業務に従事できるように工夫している。職員のストレスにならぬよう現場の声を聞き対応している。
 現状では、変更を要する場合は発生しておらず、職員の個室化なども採用面での必須事項として行っており、労働環境の配慮も苦心しながらも対応していることが確認できる。
 経営改善の体制については、有用性は認識しているものの、運営委員会として何度か行っているが、メンバー間の調整があり、集まりづらい状況がある。勤務表作成時にスケジュール化するなど、具体的な取組みが望まれる。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○
【コメント】		
<p>職員のキャリアパスや成長目標のスケジュール計画は、文書化はされていないものの、必要とされるスキルアップの研修・会議等に参加を促し、職員は受講している。基本的には養成校の新卒者を採用することとしており、新人の育成はグループまたはペアで先輩が指導している。メンバーの中で自然とリーダー格が発生して、リードしているのが現状である。</p> <p>グループの組み合わせについては、職員の意向が反映できるよう、フロア単位で案を出し、結果を検討して、組み合わせている。人材育成としては弱い面があり、定着率にも影響されるので全国的研修会でも参考事例を研修しているところである。</p> <p>結婚しても働きたいという職員が少なくないのが現状であるが、働き続けられる職場環境を目指し、将来的には住込みから通勤体制に向けていくことも含め、人材育成と確保について、検討・取組みが望まれる。</p>		
②	15 総合的な人事管理が行われている。	c
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができて	
	いる。	
【コメント】		
<p>基本的に、年限が来たら昇給ということであり、勤続年数で検討して処遇しているのが現状である。整備された昇格・昇給基準は策定されていないと言える。明確な基準に基づかず行われている面があり、人事処遇面での明確な人事考課はない。年功序列、勤務姿勢で把握しており、その点を明確にして客観的にするのが課題となっている。今後の検討・取組みが待たれる。</p>		

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	
	<input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

通勤と住み込みの職員で、勤務体系を編成している。有給休暇は本人の希望を聞き取り、シフトを組むが急な場合は職員間で検討し、対応している。健康管理については、検診・人間ドッグなどを行っている。メンタルヘルス面では、職員に自己申告自己評価にて必ずアンケートを行い、施設長が面談で問診し、対応している。面談・問診記録はメモ程度であるが、自己申告・面接結果の一覧表は保存している。前回との比較等までは行っていないが、記録としては残している。また、子どもの居室が減少したため、住み込み職員の居室とし、環境を改善したことが確認できる。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	c
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

期待する職員像は、運営目標の中で「子どもの声にならない心の有様を代弁し、子どもの成長の新たな発見を喜びとする感性を常に磨いておく」「自らが常に精神的な安定と身体の健康を維持することが必要」と明示している。しかし具体的な目標設定や、それを管理するプログラムの整備は、確認できなかった。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	c
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【コメント】

職員の資格取得情報は施設長が管理している。施設長は、地域における子育て支援・相談業務の必要性が明らかことから、社会福祉士資格はどうしても必要となるので育成していくことが重要と捉えている。ただし、目標と実績の管理は行っていないため、目標立案と実績管理が望まれる。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○

【コメント】

特に一人ひとりの研修計画については、策定していない。年間プログラムを策定していれば別であるが現在のところは、必要性を感じてはいるが、そこまで至っていない。職員の技能で達成レベルは自己申告でフォローしている。他者から見た状況で技能状況を把握するようにしている。

OJTは、制度として確立されてはいないが、統括主任の下で行われている。内部研修は、人権擁護に関する研修を外部委託で実施しているが、職員の勤務形態から、時間外でも負担が大きいと考えている。外部研修は、積極的にできるだけ参加させている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

実習生に関する計画・プログラムはあるが、明文化しておらず、慣習的に行っている。実習生に対しては、実習担当がフォローしている。規定は実習生に対する注意事項的なものがある。実習内容は実習生が学校と策定しており、養成校との連絡・発表会に担当者が参加している。また養成校が巡回しており、実習担当が対応している。とりたてて施設独自のマニュアル等で行っている訳ではない。実習生を積極的に受け入れているので注意事項のみの書面に基いてフォローしている。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○
【コメント】 運営の透明性については、必要な情報をホームページで公開している。地域に向けての広報誌は会員に送付している。町内会が会員になっているところは、町内会で配布している。評価の公表が必要なため、評価受審を機にホームページを開設している。ホームページは年2回の更新となっており、ブログでも若手職員が担当して更新を行っている。		
②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。 <input type="checkbox"/> 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	
【コメント】 銀行OBが監事に就任している。特に外部監査として専門家のチェックは受けていないのが現状である。経理規程は整備しているものの、契約についての金額が平成29年6月以前のものとなっているので変更・更新が望まれる。		

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○
【コメント】		
<p>地域のコミュニティには会合に参加するようにしている。PTA活動にも統括が積極的に参加しているが、地域との関わり方について文書化するには至っていない。</p> <p>子ども会の行事等で車提供の要請があり、ボランティア活動として対応している。子どもたちが遊びに来やすい雰囲気作りに努めている。高校生の場合には外部の者の宿泊も認めており、友人宅への外泊も認めているが、規則等の文書化はなされていない。地域との関わりは積極的に行っている。</p>		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	c
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。	
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している	
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教育への協力を行っている。	○
【コメント】		
<p>ボランティアの受入れ体制および外部参加への基本的なルールは明確化・文書化されていない。受付表を作成して希望分野を記載してもらうようにしているが、記録が保存されておらず、整備が望まれる。</p>		
(2) 関係機関との連携が確保されている。		
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○
【コメント】		
<p>施設を取り巻く関係機関のリスト・作成資料はあるが、一覧表とまでは整理されていない。緊急対応のリストは整備しており、児童相談所、学校等との定期的な連絡の機会を持っている。</p> <p>小学校の範囲である地域コミュニティ連絡会にも参加し、地域と共通した問題点として、不審者・ひったくり者等の防犯カメラの問い合わせがあるため、外部に向けた防犯カメラを今年度中に設置予定である。地域参加の報告は、職員会議で伝達して情報を共有している。</p>		

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 施設が有する機能を地域に還元している。	C
	<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。	

【コメント】

立地的に低地なので、防災対策としてリアカー保有や食料備蓄等を行っている。地域にまで広げることは難しいが、避難者があれば受け入れることは可能である。広報まではしていないが学区のハザードマップには掲載しているため、避難対応は認識してもらっている。地域にチラシを配布し、行事の紹介をしている。
 保育相談については、児童家庭支援センターを併設せよという方向になっているが、行政がブレーキをかけている。費用面の問題もあり、対応するには至っていない。

②	27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	C
	<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	

【コメント】

相談援助事業では、ショートステイとして子どもを預かる場合がある、岡山市と提携しているため、利用数が多いのが現状である。一度利用した人には好評であり、リピーターが増加している。子どもも仲良く馴染んでおり、年間数百人単位の利用数は、1月で30人位になることもある。
 各地の民生委員の見学はあるが、地域の民生委員と定例的な会議等はなされていない。公益的な事業としては行っていないので、県社協としてみんなで実行しようではないかとの構想があり、それに対応していこうかと計画している段階である。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
<p>基本方針・理念に基づいて行っている。職員居室入り口に倫理綱領を掲示している。ミーティング時読みあわせをしたり、忘れないように確認をしている。ホームページ作成時に整理し、まとめて周知している。</p> <p>人権擁護のためのチェックリストについて、全員で読みあわせ確認している。ケース会議を職員会議時に行っている。発表・指導は適切なものとなるように注意喚起しており、家庭におけるしつけに近い状態となるように目指している。定期的にチェックリストに基づき自己評価を行っている。理事長・施設長・統括主任等がミーティングで日常気づいた点を指摘するようにしており、スーパーバイザー的役割を担っている。困った時には、誰でもよから話しやすい人に相談するようにさせており、一人で抱え込まないことを原則としている。</p>		
②	29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
<p>プライバシー保護についての規定・マニュアルは作成していない。保護については、写真撮影時の注意や原則持ち物検査は行わない等、配慮をしている。持ち物検査は本人の理解を得て行うようにとの指導はミーティングで確認しながら進めている。本人の理解を得て行うようにとの指導はミーティングで確認しながら進めている。職員一人の判断では子どもに説明ができなくなるので、注意喚起を常に行っている。居室の配置については子ども同志が判断して行っている。</p> <p>個別的な対応としては、二段ベッドを部屋の中央に置いて仕切の役割を持たせる等、工夫している。子ども中心にしており、観察のしやすさを優先することはしていない。一人になりたい要望を訴えてきた場合には、会議室等を解放して勉強等に使用できるようにしている。受験勉強等で共同して勉強するなどにも対応している。これらの行動プログラム・マニュアルとして独自なものまでは作成していない。</p> <p>職員室に職員の意見箱があり、気になったことを意見・指摘するシステムは備えている。</p>		

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

入所時の資料・パンフを元に入所前・見学時に渡すようにして文書等で詳細な説明書までは渡していない。口頭で説明をするようにしている。受入れ窓口としては、主任、家庭支援専門相談員の2名であり、受入れについて手続きを進めるようになってきている。情報収集して施設としての対応を考慮して判断することになっている。子どもも不安が一杯なので見学することで、安心して入所できるように対応している。手続きの進行についての特に限定した方法をとってはいない。柔軟な対応で不安解消になるようにしている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

重要事項説明についての利用者・保護者の同意書は、入所段階で内容を保護者説明し、同意を得るようにしている。医療機関への診療・予防接種等については、同意を一括して得ておく等の工夫もしている。説明を受けて理解できない子どもについては保護者同席の上、また保護者として機能していない場合は児童相談所で同意を得てもらうように調整してもらっている。保護者が同席しない場合もあるので、可能な限りの同意を得るようにしている。入所後は“こんにちは児相”があるため、施設生活での問題を子どもに聞いてもらうようにしている。指導事項が発生すれば、それに対して改善対応を進めるようにしている。説明が理解できる年齢になった時には、その時点で説明をするようにしている。書面で保護者に説明した内容の記録・保存まではなされていない。

③	32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【コメント】

措置変更にあたっての文書化による対応記録としては整備されていない。引き継ぎやアフター担当などは特に決めていないが、施設の担当職員がアフターでも継続して関わることを基本としている。現場では担当職員がパソコン入力しているが、データとして活用するまでは至っていない。システム化も考えてはいるが、コスト面で大きいので導入できていない。担当者がケース記録として記入して管理を行い、月1度回覧してチェック体制を整えている。対応内容を記録した文書は、担当者または入所当時を知っている職員が対応することとし、特に担当者として定めてはいない。
記録についての問い合わせ対応等についての文書記録は残されていない。入所からの記録や情報の保存が求められる。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 子どものへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

子どもの生活満足度の向上を目指し、日々の支援の中で現状を把握し、子どもが困っていることについては、解決に向けてリーダー会議で話し合い、その結果を職員会議で共有している。リーダー会議の議事録からテーマごとに対応策を決定し対処していることが確認できる。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

苦情処理についての説明文は、階段登り口に掲示されているが小さく、読みづらい面がある。苦情受けは自身が言いやすい人に言うように子どもに周知しており、特に当事者に言いにくいことも誰でも良いから言うようにと伝えている。
 事業報告書で年度の苦情処理について有無・対応について報告している。苦情が発生した場合は、第三者委員に依頼して対応している。職員会議でも公表して対応、処理することとしている。
 ここ3年間は、苦情処理を行う事案は出ていない。ガイドラインに基づいた苦情解決のファイルは所定の場所に保管している。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

子どもには、相談や意見を言いやすい人に話すよう書面は整備していないが、口頭で説明し伝えている。分かりやすい場所に文書掲示しているとは言えない面もあるが、入所前に親には積極的に相談をするように説明しているとのことである。
 子どもの意見等については、リーダー会で確認して検討しており、検討結果について子どもに説明している。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

子どもからの相談や意見に対しては、職員会議・ミーティング等で対応策について指示して進めているものの、手順・対応マニュアルは作成していない。現実には実務上での問題解決について迅速に対応できているとのことである。
 リーダー会で対応した結果については、次のリーダー会で発表しており、解決までに時間がかかるものについては、子どもに理由と経緯を説明し、結果が出るまで待つように伝えている。その点での問題は発生していない。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

安全管理については、事故報告書で内容と対応について記録している。
 事故防止に対する職員全体としての対応策は策定していないが、情報収集は多く集めており、職員会議・ミーティングで周知・徹底を図っている。現在、不審者対応マニュアル等を作成中である。安全リスクについては、ミーティングで都度行っている。ヒヤリハット事例は口頭で報告しているものの文書はなく、結果として事例を集約した書面保存はない。
 警察等公的機関からの情報メールを受けて情報収集し対応するようにしている。ただし、職員全員に登録させるまでには至っていない。職員に登録するように伝達はしているがチェックまではしていない。
 安全定期点検は、衛生面でのチェックを行っている。日常生活面での定期点検見直しシステムとしてまではなされていない。気づいた点もあるが、まだ大丈夫と放置している面もある。今後、安心・安全な養育支援のためにもリスクマネジメント体制を整備することを期待したい。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。	○

【コメント】

衛生管理マニュアルは作成しており、マニュアルに基づき運営している。
 栄養士等が各フロアごとに衛生管理指導を行っている。
 チェック項目に従って職員が台所を点検し、改善点はその場で指摘しており、改善を含む結果報告が施設長に届く仕組みである。また、職員は毎月検便を実施し、子どもは夏休み明けに検便を実施して健康チェックを行っている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	C
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。	

【コメント】

災害時の防災担当者は統括主任と定めており、初動体制について、火災について初期消火・子ども誘導など毎月訓練を実施している。また、水害・通学等の防災については、通学路の確認をしている他、食料の備蓄・管理は栄養士が行っている。グループホームも一体として対応できる体制となっている。
 ただし、子ども及び職員の安否確認の方法等が具体的には策定されておらず、防災についての職員への周知・訓練は具体的となっていない。今後の取組みが望まれる。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
①	C
40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。	
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	

【コメント】

厚生労働省の児童養護施設運営ハンドブックを全職員に配付し、読み合わせしている。個別の支援マニュアルは、自立支援計画に明記しているとのことである。園独自に作成したマニュアルは少なく、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢の明示は確認できない。また、マニュアルの見直しについての仕組みづくりもこれからの課題である。

②	C
41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	
<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	
<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	

【コメント】

厚生労働省の児童養護施設ハンドブックの通りに支援を行っているかの検証や見直しについては時期・方法などの規定はない。今後、園のマニュアル策定と定期的な検証・見直しの仕組みを確立し、更に質の高い支援につながることを期待したい。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

担当職員が一人ひとりの子どもの基本的な生活習慣、健康状態、学習などについて、園オリジナルの生活等アセスメント表に記録する仕組みがある。計画は個別に具体的なニーズを記し、支援に反映している。月2回の職員会議にて計画と支援内容を確認しており、全職員が一人ひとりの子どもの様子を把握している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

1年に1度、自立支援計画を見直している。見直しにあたっては、担当職員が評価見直しを行い、職員会議で更に検討し、次の計画に繋げている。これまでに、児童相談所に再判定を求め施設変更を検討したケースがある。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

子どもの身体状況は、身体測定表にて管理し、低身長や肥満など配慮が必要な場合は、身体曲線にて状況を確認するケースもある。記録はパソコンを使用し電子記録であり、職員が記録閲覧でき、情報共有に役立てている。小規模ホームの様子やユニットでの子どもの様子などは、職員間で話している他、月2回の職員会議が有効であり、施設長をはじめ、全職員が情報共有する機会となっている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

子どもに関する記録については、文書管理規程のもと適切に管理されている。職員には全養協が作成しているチェックリストを活用し、守秘義務に関する項目をチェックすることで意識付けとなる工夫がある。また、職員には守秘義務の誓約書を取っており、個人情報保護に関する理解を促している。

内容評価基準（41項目） A-1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		第三者 評価結果
① A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているかを、振り返り検証する機会が設けられている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの養育や成長にとって何が最善なのかを、職員間において常に話し合える環境にある。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの最善の利益を考慮し真摯に向き合っている。	○
	【コメント】 子どもの動静については、朝礼時に職員間で共有されている、欠席者へは後日、記録を基に伝達している。トラブル発生時は子どもに原因を求めがちだが、職員に問題があるのではないかと気づきを与えるようにしている。施設長と職員との面談は、年に2回以上、定期的に行われている。また主任と職員との面談は随時受け付けており、養育・支援の内容を振り返る機会を確保している。	
② A2 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○
	【コメント】 現在は全ての子どもが親と連絡を取れる環境にある。子どもは自分の家庭環境を理解しており、改めて話すことは無い。乳児院から入所した子どもは、アルバム等がよく揃えられており、個人写真も多く、成長後に振り返ることが出来る環境の確保に努めている。	
(2) 権利についての説明		
① A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	<input type="checkbox"/> 定期的に全体の場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、施設生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことまた、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
【コメント】 権利擁護については、年に1回児童相談所の面接時に子どもに説明し、同時に職員に対しても説明を行っている。小学生だけの会や中高生は代表によるリーダー会の際に、主任と出席可能な職員が子どもの意見を聞いている。権利ノートを使っている話はない。施設長がしばしば、権利擁護のテーマで話をしている。高校生は理解できるが、理解が難しい小学生には、生活の中で伝えるようにしている。		

(3) 他者の尊重	
①	<p>A4 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもとが個別的にふれあう時間を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/> 喧嘩など子ども間でトラブルが生じた場合、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるよう支援をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するよう支援している。</p>
	b
<p>【コメント】</p> <p>子どもたちが他者との良好な信頼関係を築くため、まず職員との関係性を重視し、統括主任は職員に対して「小さい子、弱い子が園の中で一番わがママが言える立場である」ことを折に触れて話している。喧嘩などのトラブルは、グループ担当職員を中心に両者の意見をしっかりと聞くことを基本に、子どもたちと一緒に解決している。また、大きい子が小さい子に対して暴言・暴力をふるうことは絶対にダメであることを徹底し、職員も含め注意しあっている。</p>	

(4) 被措置児童等虐待対応	
①	<p>A5 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。</p> <p><input type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分などを行う仕組みが行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待防止ガイドラインに示されているような具体的な例を示して、日常的な会議や研修会等で体罰等を禁止している。</p> <p><input type="checkbox"/> 被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合、主管行政窓口や児童相談所等に報告するとともに第三者委員等も入れて適切な調査をし、対処することが出来ている。</p>
	a
<p>【コメント】</p> <p>全養協では、各施設に3年以内に被措置児童等虐待防止に関する研修を受講するよう指示しており、当園も取り組んでいる。園では、全養協のチェックリストを使って職員が自身の支援を振り返り、年度初めに岡山県が発行しているマニュアルをもとに職員が読み合わせしている。被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合の対応フローがあり、児童相談所や行政担当課への報告や第三者委員の設置も確認できる。</p>	

②	<p>A6 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがつけられている。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。</p>
	b
<p>【コメント】</p> <p>子どもに対する不適切なかかわりに関して、施設長や統括主任は折に触れて職員に注意喚起しており、就業規則にて処分等の規定を定めている。不適切なかかわりを発見した場合は、苦情解決の様式を用いて報告することとしており、職員には、具体的な例として暴言暴力という言葉を用いて説明している。高校生からの職員の言動についての訴えは、施設長や統括主任が職員会議にて周知し、言動に配慮するよう指導している。</p>	

<p>③ A7 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備され、かつ日常的に活用できるようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>子どもが虐待を受けていることを知った者は、迅速に届出・通告の義務があることをマニュアルを整備し、職員に周知している。対応フローには、児童相談所や行政担当課への報告や第三者委員の設置も明記されており、仕組みが整備されていることがわかる。子どもには、子ども会やリーダー会で自由に話せることや意見箱の設置場所、使い方などを説明している。</p>	
<p>(5) 思想や信教の自由の保障</p>	
<p>① A8 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの思想・信教の自由については、最大限に配慮し保障している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設において子どもの思想や信教の自由を保障しようと努めているが十分ではない。</p> <p><input type="checkbox"/>保護者等の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>子どもの思想・信教の自由については保障している。冠婚葬祭への出席も、自由に出来る状況にある。七五三の際は護国神社からの招待があるが、親が希望した場合は、そちらを優先している。</p>	
<p>(6) こどもの意向や主体性への配慮</p>	
<p>① A9 子どものもそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。</p> <p><input type="checkbox"/>入所した時、温かく迎える準備をしているなど様々な工夫を凝らし、受け入れについて施設全体で行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>被虐待体験だけでなく、子どもの分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/>分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めており、定期的に見直しを行い、実践している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p></p> <p></p>
<p>【コメント】</p> <p>子どもを児童相談所から受け入れる時、あらかじめその子の部屋や物に名前を付けて、迎え入れている。子どもの環境の背景は、職員会議等を通じて、職員全体で把握している。入所後1ヶ月間は特に気をつけて観察し、自立支援計画を作成して、職員全員に周知している。</p>	

②	A10 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活日課や生活プログラムは子どもとの話し合いを通じて策定している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○

【コメント】

自立支援計画は、状況を理解できる子どもに対しては、共有して目標を確認し、意識を持たせている。年間計画を子ども全員が作成しており、誕生会の際に目標を全員の前で発表し、職員と子どもが共に考える機会を確保している。

(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活

①	A11 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの趣味や興味、生活文化にあった生活になるように子どもの意見を反映させ、適宜改変している。	○
	<input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞等、またテレビ、ビデオ、オーディオ等が、子どもの健全な発達に考慮したうえで、自由に使用できる。また、ゲームの適切な使用の配慮がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に生活に関わることができるよう工夫がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが地域の活動等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。	○

【コメント】

子どもの成長に合わせ、地域の子どもの会のスポーツ少年団に入ったり、学校の部活動に参加するなど趣味や興味を生かすよう支援している。図書は図書室に寄贈される書籍があり、子どもたちは自由に読んでいる。職員は、基本的な日課を決めて支援している。また、好みの雑誌は本人の小遣いの許す範囲で購入しており、テレビはリビングルームに設置し、ゲームは職員が管理している。子どもの状態によって、他の人に迷惑をかけたり、時間が長すぎると翌日は観られないなどルールを決めている。

②	A12 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 小遣い帳や通帳を使って、限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理ができるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど物の値段の相場や、金銭感覚が身につくよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立を控えた子どもなど、必要な子どもに対し、一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童手当等について、子どもの目的にあわせ適切に使用または貯蓄をしている。	○

【コメント】

小学生以上は小遣い帳をつけており、金銭は職員が金庫で管理している。高校生以上はケースによるが、自身で所持し管理することを支援している。中学・高校生は、職員と一緒に買い物に出かけ、値段の相場や金銭感覚が身に付くよう体験を重視している。自立に向けて一定の生活費で自身で生活するプログラムを昨年は2件支援している。

(8) 継続性とアフターケア	
①	A13 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。 <input type="checkbox"/> 家庭復帰にあたって復帰後の生活を検討している。 <input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援方法など関係機関との役割を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 家庭復帰相談を受けることを本人、保護者等に伝えている。 <input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや保護者等の状況の把握に努め記録を整備している。
【コメント】 家庭復帰にあたっては、担当者が子ども本人の不安を聞き取り、解消できるよう支援し、親の状況で外泊から始め、長期外泊を企画し、担当者が自宅を訪問し状況を確認している。また、戻ってから本人への聞き取り、様子の観察、親への不安などを聞いている、家庭復帰は児童相談所との協議にて決定しており、復帰後は学校へ様子を問い合わせる他、退所後に子どもが遊びに来た際など、機会を捉えてアフターケアに努めている。	
②	A14 できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。 <input type="checkbox"/> 高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもなどについて措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。 <input type="checkbox"/> 措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。
【コメント】 本人が18歳の誕生日を機に、措置継続に関して延長申請を行っている。また、児童相談所と親と話し合い、本人が高校卒業後の自立への道筋を模索し、不安定な生活が予想された際に、20歳まで措置継続延長を申請して、仕事をしながら生活した例もあるなど、本人が社会へのスタートを切れるよう支援していることが窺える。	
③	A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。 <input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。 <input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。 <input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。 <input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。 <input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。
【コメント】 退所した場合は、その後は児童相談所の対応となる。退所後もお祭り等の行事の際は声を掛けている。警察から問い合わせがあった場合は、回答すると同時に児童相談所へも報告している。	

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	<p>A16 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども達に職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>子どもが感情的になって職員が話をする必要のある場合は、複数の職員で対応している。子どもの生育歴の違いは職員全員で把握すると同時に、必要に応じて心理担当職員と主任から助言を行っている。</p> <p>子どもからの利用者アンケートは実施されていない。小学生のミーティングは月1回、中高生はリーダー会の際に、グループの意見を出し合って検討する機会を確保している。</p>		
②	<p>A17 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりの基本的欲求を把握している。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。</p> <p><input type="checkbox"/>高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/>夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>子どもとの信頼関係を築く工夫として、職員が新人だけにならないように関わり、買物に同行してコミュニケーションを取るよう心がけている。</p> <p>グループ単位で行動しているが、グループで特別な事をする場合は、他のグループに断った上で実施している。その際には担当職員に裁量権を与えている。子どもが学校でつまづいた場合は、どう思ったかを振り返らせ、自分で解決出来るように導いている。必要に応じて学校へ連絡する場合もある。</p>		

③	A18 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> つまづきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に把握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	○

【コメント】

職員は子どもが考えて行動しようとする際には、必要以上の指示などせずに、見守っている。つまづきや失敗した時には、原因を考え解決するよう導いている。登校前や夕飯の時間など、職員が忙しい時間帯にも朝の挨拶や下校して帰園する子どもへの声掛けを全職員が心掛けており、子どもの変化等を的確に把握し、対応するよう努めている。

④	A19 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での保育が、年齢や発達状況に応じたプログラムの下、実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。必要性があれば可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちのニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼稚園に就園させている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもたちの学びや遊びを保障するための、資源(ボランティア等)が十分に活用されている。	○

【コメント】

発達段階に応じた教育について、学業面では担当職員が宿題を見て、質問できる機会を確保している。生活面では、うまくいっていないような時は学校に様子を聞いたり、必要に応じて児童相談所へ相談している。
ホームに図書室を完備しており、小さな子どもから高校生までの各年齢層に応じた図書を備え、自由に利用できる。小さな子どもに対しては、その子の年齢に合った玩具(塗り絵、パズル等)をリビング入口の三段ボックスに入れて、自由に遊べる環境を確保している。

⑤	A20 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気の中で秩序ある生活が営まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」としてはならないことを理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 見やすくわかりやすい掲示物など、子どもが社会生活を営む上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。	○

【コメント】

職員は自身の言動が子どもの規範になると認識している。社会情勢など日常生活の中で得られる情報として、報道されるニュースを活用している。夕食の時間はホールのテレビをつけて、ニュースを観ながら話題にして職員と子どもは会話している。また、近隣の商店におつかいに出掛け、地域社会への参加を促し、あいさつやお礼など社会的ルールを習得するよう支援している。

(2) 食生活

①	A21 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。	○
	<input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれている。	○
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎える際の食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。	○

【コメント】

中高生は部活やアルバイトで戻りが遅いため、電子レンジで温める他、職員がそばにいて話を聞くなど、それぞれに対応している。自身の物として、箸やコップ、湯飲み、茶わんがある。時には回転寿司を食べに出掛けたり、ピザを取ったり、毎月の誕生会には、お世話になっている地域の方々を招いて、一緒に食事するなど、多種多様な食事の楽しみ方がある。クリスマス会では書籍を寄贈して下さる方をはじめ、普段からお世話して下さる方々を招待し、一緒にバイキング料理を楽しんでいることが、ブログから窺える。

②	A22 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 少数の子どもを対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。	○

【コメント】

平日の昼食、夕食は栄養士が献立を立てて、厨房で調理し、配膳用エレベーターを使って、それぞれのグループに届けている。土日の献立は各グループの担当職員が立て、栄養士がチェックし指導している。月に1度、グループの代表がパクパク委員会と称する給食員会を開き、リクエストメニューをグループから5つ持ち寄り、献立に入れるなど子どもの楽しみが反映される仕組みがある。
 体調を崩した子どもには粥やうどんなど配慮した食事をグループで提供している。食物アレルギーは今はいないが、以前はトレーを別にして、職員がそばに付いて対応したケースもある。

③	A23 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	b
	<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 食品分類やおやつへの摂り方等、栄養についての正しい知識を教えている。	○
	<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。	○

【コメント】

日頃の食事では、箸の持ち方を指導したり、野菜の色分けで栄養素を知らせるなど工夫している。小学生は夏休みに調理実習をしたり、中学生は食材選びで職員と一緒に買い物に出かけ、季節ごとの旬の野菜を知るよう支援している。高校生は3ヶ月に1度、自分で料理本を見て献立を立て調理して、子どもたちに食べてもらう機会があり、写真を撮って退所後に役立つように退所時に渡している。
 また、一階の和室を利用して、定期的なお茶会を開いて、順番に体験している。後片付けは、就学前の子どもは自分の食器を台所のシンクまで持っていき、小学生以上は職員と共に食器洗いしており、それぞれの発達段階に応じて食習慣が身に付くように支援していることが確認できる。

(3) 衣生活

①	A24 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○
	<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体に合ったものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○

【コメント】

衣類は入所時に持参しており、衣替えはグループ単位で行っている。朝礼では職員に対して「自分が衣替えしようと思ったら、子どもが先」と指導している。靴は幼稚園、小学生は毎週自分で洗うよう指導している。男子は小学校低学年は職員がアイロン掛けしており、女子は小学校高学年から自分で掛けている。成長に応じて、好みに合わせた衣服は職員と一緒に買い物に出掛け、助言など援助している。

(4) 住生活

①	A25 居室等施設全体がきれいに整美されている。	b
	<input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。	○
	<input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	○

【コメント】

普段の居室の清掃は、子どもが分担を持ち、職員と共に行っている。行事の際の壁飾り等は、職員に任せている。食事後の歯磨きは、小さな子どもには職員が時間をかけて行っている。
 体の大きな子どもにテーブルが小さくなる場合は、椅子の脚をカットして低くすることで対応している。また、小さい子どものために、洗面台の1つは低い位置に設置している。
 壁紙等に修繕が必要な場合は、ボランティアの方に依頼している。程度によっては職員が行う場合もある。

②	A26 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	b
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> リビングや居室は子どもが安心していられる場所になるような配慮がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。	○

【コメント】

避難時の備えもあり、小さな子どもの部屋は職員の部屋の近くに確保するようにしている。グループが半独立しており、リビングはグループ全員で自由に使える環境が整えられている。居室内は各部屋でベッドや学習機の配置を子どもの自由にさせており、相部屋でもひとりの居場所を確保出来るよう心がけている。担当職員は、ホールで行える仕事はなるべくホールで行うようにしており、子どもに目を配っている。

(5) 健康と安全

①	A27 発達段階に応じ、身体健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄、生理等の状況を職員がきちんと把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 手洗いやうがいの習慣が身に付くよう支援している。年少児については排泄後の始末や入浴の介助をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り、耳そうじ等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。また必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなどの配慮がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に理美容をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、衛生管理ができるよう支援している。また夜尿のある子どもについては、子どもの自尊心に配慮しながら支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所等を把握し、子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から子どもに教えている。	○

【コメント】

子どもたちの健康状態は、部屋の担当職員が見ている。大きくなって入所してきた子どもは、基本的なことが出来ていない場合があり、児童相談所と相談しながら根気よく指導している。睡眠が確保出来ているかどうかは、次の日の様子を見て判断し、指導している。

理美容については、理容師が1グループ、美容師が2グループ、月1、2回ボランティアで来園し、散髪してもらっている。どうしても時間が合わない場合は、近所の店舗にて行っている。

交通事故防止については、年1回外部研修として安全運転管理者講習を受講している他、自分の身を守る方法の指導については職員が指導している。

②	A28 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○

【コメント】

児童精神科医の受診が必要な子どもや、服薬している子どもは、担当職員に心理担当職員が加わり、健康状態の把握に努めている。夜の動静や服薬の状況については、翌朝の朝礼で伝達している。服薬の確認も、担当職員が行っている。

(6) 性に関する教育

①	A29 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達段階に応じたカリキュラムを用意し、支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

【コメント】

性についての教育は、日常会話の中で担当職員より指導している。研修での事例を参考にしている。

(7) 自己領域の確保

①	A30 でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが小さい頃から、自他の境界線がわかるような支援方法を心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの好みを尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> まだ字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。記名やマークは、でき得る限り子どもからの許可を得、子どもが恥ずかしがらなくても済むような場所に留める。	○

【コメント】

当園は、基本的に2人部屋である。就学前の子どもは衣服のロッカーやおもちゃカゴに自分のわかるシールを貼って、他と区別するよう支援しており、共有のおもちゃを収納するカゴは別にあることも指導している。また、自分の部屋にも自分の物とわかるようシートを貼っていることが確認できる。

小学生以上は、机やロッカーは自分だけの領域であり、整理整頓も含め管理するよう指導している。成長に合わせ、シャンプー、柔軟剤など個人所有の物は、小遣いで買える範囲で支援し、管理も本人に任せている。

②	A31 成長の記録（アルバム等）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録（アルバム等）が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができ、子どもの生い立ちの整理につながっている。	○
	<input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録（アルバム等）を整理している。	○
	<input type="checkbox"/> アルバム等は年齢や状況に応じて個人が保管し、子どもがいつでも見ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に、成長記録（アルバム等）が手渡されている。	○

【コメント】

園の行事では担当職員が写真を撮り、ポケットアルバムに保存しており、退所時に渡すよう準備している。高校生は自身で管理している子どももいる。今いる子どもたちは、家庭とのつながりがあり、入所前までの成長の記録は親が収集保管しているため、空白が生じないように支援している。

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A32 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の影響を施設全体で立て直そうと努力している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○

【コメント】

学校など施設外で生じた問題については、職員が本人に話を聞いており本人の人格を否定せず、生じた問題の原因等を検討するよう心掛けている。
職員会議では、施設長、統括主任が適切な対応を取るよう職員に指導している。内容によっては、児童相談所と協議することもあり、最善の方策を見つけ出すよう努めている。

②	A33 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示し、子どもへ説明をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 大人（職員）相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○

【コメント】

統括主任は子どもたちと職員に対して「小さい子、弱い子が園の中で一番わがママが言える立場である」ことを折に触れて話している。グループは女子と男子に区別し、関係性、年齢などに配慮し部屋を決めている。入所間もない子どもについては、入所に子どもたちに情報を伝え、迎える準備など行う中で、一緒に生活する仲間であることを意識付け、いじめなどがないう工夫している。
子ども間の揉めごとや暴力、いじめは予兆を察し、施設長、統括主任を筆頭に解決するよう努めている。

③	A34 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性 がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	a
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りのための対応について職員に周知徹底している。	○
	<input type="checkbox"/> 引取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にな らないようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りが考えられる場合、他の子どもへの安全についても配慮がされて いる。	○

【コメント】

親からの引き取りたいという要望は、「児童相談所に言って下さい」と伝えている。事例は朝礼で全職員に伝
え、施設長、統括主任に指示を仰ぐことがルールであることを職員に周知徹底している。緊急時に協力を得るため
に、最寄りの警察署の連絡先を掲示し、連携を図り、子どもの安全を確保するよう努めている。

(9) 心理的ケア

①	A35 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行ってい る。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援 プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で 有効に組み込まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが 行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的支援を行うことができる有資格者を配置し、心理療法室を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を 行っている。	○

【コメント】

心理的ケアの必要な子どもは、児童相談所からの定期的な訪問の他、園から児童相談所を尋ね、ケースによっ
ては医療機関に依頼している。園内には心理担当職員を配しており、相談に乗っている。夜泣きの子どもには担当職
員が対応しているなど、心理的な支援に努めている。

(10) 学習・進学支援、進路支援等

①	A36 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行ってい る。	b
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、学 習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個 別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家 庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害を持つ子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校 等への通学を支援している。	○

【コメント】

子どもが学校から帰ってくると、まず持ち物と宿題のチェックを行い、その後におやつを取るようになっている。
障害を持つ子どもには、特別支援学校への進学を指導し、就職に有利になるよう配慮している。学習環境として、
夜に会議室とホールを開放し、自由に利用できるようになっている。
小学生に対しては、週1回、夜に学習ボランティアとして教員OBや大学生が1対1で対応して宿題を見ている。

②	A37 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。	
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて努力をしている。	○

【コメント】

子どもの進路については、高校2年生の夏から指導を行い、自立支援計画に反映させている。進路の適切な指導について、担当職員が学校の先生と相談し、その際に親の意見を取り入れている。指導内容は学期毎に見直している。

大学進学時の資金について、奨学金申請は昨年度は行っておらず、親が支出している。今年度は2名が奨学金申請している。

③	A38 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	○
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

職場体験は、園が準備したものは無く、中学校・高校が準備したものに参加している。時間を守ることで信用が高くなるということを、特に熱心に教えている。

金銭管理の教育の一環として、アルバイトを奨励している。自動車教習費用をはじめとして、退所時に必要な資金を貯蓄するよう指導している。アルバイトは子どもがフリーペーパーで見つけたものを、担当職員と協議して決定している。その際に、居酒屋等アルコールを扱う業種は禁止している。ボランティア先での就業実績は無いが、アルバイト先では実績が有る。また子どもと担当職員の間で懇談する際に、資格取得に対しても説明している。

(11) 施設と家族との信頼関係づくり	
① A39 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。 <input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。 <input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかわり目の発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。 <input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	b ○ ○ ○ ○ ○
【コメント】 春は南野祭りがあり、家族に案内し、可能ならば参加してもらっており、時により外泊へ繋げている。学校行事の際にも家族に案内を行う等、行事の度に家族と連絡を取っており、家族との信頼関係作りに取り組む姿勢が確認できた。	
(12) 親子関係の再構築支援	
① A40 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。 <input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	b ○ ○ ○
【コメント】 行事の際に状況が許せば外泊を許可する等、親子関係の再構築のために積極的に取り組んでいる。必要に応じて親子生活訓練室を活用し、親子生活の訓練を支援している。	
(13) スーパービジョン体制	
① A41 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。 <input type="checkbox"/> 職員に対するスーパービジョンを定例的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。 <input type="checkbox"/> スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。 <input type="checkbox"/> スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。 <input type="checkbox"/> 国が定める基幹的職員を設置している。	b ○ ○ ○ ○ ○
【コメント】 統括主任をスーパーバイザーとして設置している他、基幹的職員も配しており、職員がいつでも相談できる体制を整えている。統括主任は、日頃から職員の様子に気を配り、声を掛けたり相談に乗っている。また、統括主任は施設長に相談できる仕組みがあり、組織力向上に取り組んでいる。	